

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	ふれあい保育「親育ち」応援事業	部局名	教育指導部
		課(室)名	学校教育課

【基本情報】

基本目標	02心豊かに暮らせるまちをめざして
政策	01学校教育を充実する
施策	01特色ある就学前教育を推進する
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	人との関りがますます希薄化していく中、コロナ禍のため生活に制限があり、親子共にストレスを感じ子育てに対する不安や悩みを抱える保護者が増え、情報に振り回され適切な子育てができない環境になっている。また、安心して遊べる場が少なく地域の異年齢児との遊びの場が減少している。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	地域、保護者の教育力の向上を図る。保護者同士の絆を深め、子育てに対する不安を解消し、子育ての楽しさを実感するとともに、今後の自主的な活動につなげる。未就園児にとっては基本的な生活習慣の定着や道徳性の芽生えを培う。幼稚園児にとっては他人に対する優しさや思いやりの心を育てる。
対象 ※誰、何に対して	0歳から5歳までの乳幼児とその保護者。
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	市立幼稚園（16園）において、ふれあい保育年間10回・施設開放年間10回程度、子育て中の保護者が主体的に活動する場を設ける。地域の高齢者とのふれあいや子育てに関する専門家の講演会、子育て相談などを実施する。未就園児が幼稚園児とふれあう場や集団体験の場を設ける。

【コスト】

		令和2年度（決算見込）
事業費合計		382千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	382千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	10 教育費
項	07 社会教育費
目	05 家庭教育費
細目	045 ふれあい保育「親育ち」応援事業

【コスト推移】

	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（決算見込）
事業費合計	629千円	560千円	382千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	子育てを通して、親自身が親として成長していくうえで、重要な事業である。

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	ふれあい保育「親育ち」応援事業	部局名	教育指導部
		課(室)名	学校教育課

【対象】

対象指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
園区の乳幼児、保護者	人	1,247	1,029	1,022

【事業実績】

活動指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	回	10	10	7
活動指標分析結果	コロナ禍の中、9月開始となり7回の実施となったが、子育て中の保護者にとって同年代の人と関わりがもてると共に、自分の子育てを見直す良い機会となった。子供と向き合い、望ましい関わりをすることで子供の成長に良い影響を及ぼし、未就園児には、他の子供と遊ぶことで、社会性の発達につながり、園児には異年齢のふれあいの場となり心の成長につながる。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目 標 値
出席率	パーセント	75.9	78.847	80.1	令和2年度	85
成果指標分析結果	幼稚園が社会生活の第一歩となる安心して遊べる場になり、親子の様々な体験活動は愛着形成に繋がり、子育てを楽しむ姿が増えた。また、保護者・子供同士、地域の方々等、多様な人たちとの関わりがもてるため、親も子も人間関係力・コミュニケーション力が高まっている。					